プリンセス
小公女セーラ

第27話

『デュファルジュ先生の帰国』

AR台本

企画
制作
日本アニメーション株式会社

プリンセス
小公女セーラ

第二十七話　『デュファルジュ先生の帰国』

登場人物

セーラ……………島本須美
ラビニア…………山田栄子
ベッキー…………鈴木三枝
ミンチン…………中西妙子
ジェシー…………飯塚はるみ
ガートルード……佐々木るん
ロッティ…………渡辺菜生子

アーメンガード……八百板万紀
モリー……向殿あさみ
デュファルジュ……上田敏也
クリステル……
ダイアナ……
ドルシラ……
リンダ……
ペネラビ……

カメラ	画面		音声
1	窓に写っているセーラの顔 T・B キョトンとしているセーラの顔に、ラビニアの声がかぶる ※ミンチンに知れたらまずいので、ヒソヒソ声		ラビニア(off)「ね、セーラ。あなたに、頼みたいことがあるのよ」
2	踊り場 セーラとベッキーをとり囲むラビニア、ジェシー、ガートルード セーラ ジェシーたちを見て、ラビニアに顔を戻して		セーラ 「どうしたの? こんな時間に」
3	ラビニア 手に持っていた紙片を、ヒラヒラ振りつつと、セーラの方へ紙片を突き出す		ラビニア「この手紙、明日の朝までに、フランス語に直してくれないこと?!」
4	その紙片を見るセーラ		
5	同じような紙片を示す、ジェシ		

	6	7	8	9	10
ーとガートルード	ハラハラしているベッキー	ちょっとびっくり顔で、ジェシーとガートルードを見つめるセーラ セーラ　ラビニアに確かめるように	挑戦的に	やさしく言う ラビニアを諭すつもりでは、なかったのだが…	それが、ラビニアの癇に触わる イライラと… と、再び紙片を突き出す
ジェシー「私のも」 ガートルード「私のもよ」		セーラ　「でも、これは、デュファルジュ先生が、おだしになったフランス語の宿題なんでしょう?!」	ラビニア「だったら、どうだって言うの?」	セーラ　「宿題は、自分でやらなくてはいけないわ」	ラビニア「フン！　うるさいわね。あなた、ロッティやアーメンガードたちに、フランス語を教える代用教師でしょ?!　私たちにだって、少しくらい教えたっていいはずだわ」

11	そんな…!! セーラに被いかぶさるように、 紙片を押しつけて 大きくふり向いて行く 唖然と見送るセーラの手に紙片 がある	セーラ「……」 ラビニア「じゃ、頼んだわよ」 セーラ「あーッ！」
12	三階へのぼって行くラビニア、 小走りで行く	
13	のぼって行くラビニア　階段の 上では忍び足	
14	ジェシーとガートルードも、セ ーラに紙片を押しつけて ふり向いて行く	ジェシー「頼んだわよ」 ガートルード「私のも」
15	セーラの手に紙片	
16	素早く、二階へおりて行く二人	
17	呆然と二人を見送るセーラとベ ッキー	

	ベッキー　心配そうにセーラを見る		
18	紙片を見つめるセーラ		
19	手の中の紙片 ――O・L――		
20	朝		
21	舞い降りる雀		
22	セーラの部屋 机に突っ伏して眠っているセーラ　T・U		
23	ちびたローソクより　C－PAN↖　手紙を書きかけのまま、眠っているセーラ フッと目を開ける　そのまま、書きかけの手紙を見つめている まだ充分に目覚めていない 気づく		セーラ　「あ、いけない。私、昨夜（ゆうべ）、書きかけのままで、眠ってしまったんだわ」

24	ノックの音聞こえて、ふり向くセーラ セーラ　立ちあがる ちらりと手紙を見て		S・E(off)（ノックの音） ベッキー(off)「おはようございます。お嬢さま」 セーラ　「はい」
25	机の上の手紙を見つめる セーラ　ふり向いて、歩き出す out　ベッドの上に、エミリー人形		S・E(off)（ドア開ける音）
26	明るく答えるセーラ		セーラ　「おはよう、ベッキー」 ベッキー（背）「あの、もう下へ行かなきゃならないお時間です」 セーラ　「ええ、ありがとう」
27	ベッキー　にっこり		ベッキー「はあ〜」
28	地階　モーリーの怒鳴り声が響く ベッキー　パンカゴ持って、セーラ、スープ鍋持って出て来る		モーリー(off)「セーラ、ベッキー!!　生徒さんたちが、降りて来る頃だよ!!　ぐずぐずするんじゃないよ!!」 ベッキー(off)「はい、只今すぐに!!」

	食堂へ入って行く		S・E(off)（カラ〜〜ン、カラ〜〜ン・振鈴の音）
29	卓上の皿 オタマinして、スープを注ぐ		
30	セーラ　次の席へ（キャリーを押）ながら移動する スープを注ぐ		
31	ベッキー　パンを配る		
32	忙しく仕度する二人		S・E(off)（カラ〜〜ン、カラ〜〜ン）
33	開け放たれた扉から 年少組を先頭に、ドッと入って 来る生徒たち		年少組「（ADLIB）〜〜〜」 生　徒「（ADLIB）〜〜〜」
34	ロッティ　立ち止まって挨拶する		ロッティ「おはよう、セーラママ！」 クリステル・リンダ「（ADLIB）〜〜」
35	笑顔で答えるセーラ		セーラ「おはよう、ロッティ」

36	ロッティ　にっこりして行く		ロッティ「フフフッ」
37	アーメンガード　立ち止まって 自席へ行くアーメンガード		アーメンガード「おはよう、セーラ」 セーラ　「おはよう、アーメンガード」
38	アーメンガード　席に着く スープを注ぐセーラ（キャリーを押していく）		
39	ラビニアたち、入ってくる 立ち止まり、セーラの方を見て冷笑うかべて、ツカツカと歩き出す ジェシー　扉を閉めて、ガートルードに続く		
40	まわり込んで来るラビニア セーラのそばへ近づく 後に続くジェシーとガートルード		ラビニア「セーラ！」
41	顔を上げるセーラ		セーラ　「はっ！」

42	ラビニア　立ち止まって、猫な で声気味に言う	ラビニア「頂戴！　昨夜頼んだの‼」
43	セーラ　言いにくそうに	セーラ「あの、それが、まだ終りまで出来て なくて……」
44	眉逆立てるラビニア	ラビニア「まあ！」
45	顔見合わせるジェシーとガート ルード　再びセーラの方を見る	
46	ラビニアを見つめるセーラ ラビニア　ちょっと前へのり出 す　セーラ、目を落とす	
47	キッとなるラビニア、かみつか んばかりに	ラビニア「一体どうしてくれるつもりなのよ！」
48	目を上げるセーラ	
49	心配げに見つめるアーメンガー ド	

50	はっとなって見るロッティたち		ロッティ達「ハッ！」
51	にらむラビニアを見つめていたが、顔を落とすセーラ 目線を上げるセーラ うなづくセーラ チラリと見るセーラと、振り返るラビニア		セーラ「ごめんなさい……あともう少しだから……授業が始まるまでには、出来ると思うわ」 ラビニア「確かなのね」 セーラ「ええ……」 S・E（扉のひらく音・ガチャ）
52	アメリア　扉をあけ、ミンチン入ってくる		
53A	フンと冷笑を浮かべた顔をよせて　※ヒソヒソ声で 歩き出すラビニア 後に続くジェシー、ガートルード		ラビニア「フン…じゃ、あとで必ずよ！」 ガートルード、ジェシー「忘れないでよ！いいわね！」
53B	一斉に挨拶する生徒たち ミンチンとアメリア、立ち止まる		生徒たち「おはようございます。院長先生！」 ミンチン「おはよう、皆さん」

53C	三人　座る		ラビニア「おはようございます。院長先生！」
54	おや？　となるミンチン		
55	ボンヤリ立っているセーラ		
56	ミンチン　セーラの方を見て		ミンチン「セーラ！」
57	ハッとミンチンに顔を向ける		セーラ「は、はい」
58	ミンチン　二、三歩進み出る		ミンチン「何をしているのです。早く食事の用意をなさい！」
59	返事をして、あわてて仕事に戻るセーラ		セーラ「はい、院長先生」
60	ラビニアの皿にスープを注ぐ		
61	セーラ　スープを注ぎ終えて、身体を起こすとout 勝ち誇った顔のラビニアが見える		

62	地下の洗い場　空舞台 空になったスープ鍋を下げて、セーラがやって来る　続いてベッキー 鍋を流しに置くセーラに声をかけるベッキー		ベッキー「お嬢様、ここは私が致しますから、どうかフランス語のお手紙とかの方をおやりになって下さい」
63	でも、ベッキー…の顔のセーラ		
64	頓着ないベッキーの微笑		ベッキー「ウフッ！ これでもう、あの方たちはきっと、お嬢様に威張れなくなりますわ」
65	思わず微笑を返すセーラ		セーラ「まあ、ベッキーったら!!」
66	ベッキー　セーラをうながすように		ベッキー「さ、どうぞ。あちらで……、お嬢様」
67	小さくうなづくセーラ		セーラ「ありがとう、ベッキー」
68	階段で眠っているシーザー		S・E(off)（カラ～～ン、カラ～～ン（振鈴の音）←～

69	シーザー　ほんの少し身動きするが、起きようともせず、しっぽをダラリと下げて眠り続ける		〜〜〜〜〜
70	地下・作業場 アイロン台で、手紙を書いているセーラ　T・U		
71	ペンを走らせるセーラ 書き終えて、ペンを置く 手紙持ち上げて、息を吹きかけて、インクを乾かす 立ちあがって、三通とりまとめて、ふり返り行く		セーラ「やっと終ったわ。 フー！　フーッ！　フーッ！」 S・E(off)（カラ〜ン、カラ〜ン） セーラ「さ、急がなくては」
72	セーラ　階段駆け上がって来る 教室へ向かう		
73	ドア開けるセーラ		
74	ラビニアたちが、一斉に見る		三人「ん?!」
75	ダイアナ、ジェニファ、クリス		S・E(off)（ドア閉める音・ガチャ）

	テルが注目している その前を進むセーラ		
76	ラビニアの前で立ち止まるセーラ		ラビニア「遅いじゃないの!!」
77	セーラ　謝って、ラビニアの分をさし出す		セーラ　「ごめんなさい。やっと今、終ったばかりなの。はい」
78	ひったくるようにして受けとるラビニア 紙片を読む		
79	ジェシー　のり出して 紙片を渡すセーラ		ジェシー「わたしとガートルードのは？」 セーラ　「あ、これよ」
80	ジェシー　ガートルードに紙片をさし出す 自分の分を、確認して下さい 受けとるガートルード 紙片を見て		ジェシー「ほら、あんたのよ。 〜 わあ、さすがにお母さんがフランス人だったただけのことはあるわね」

81	内心は動揺しているラビニア それほど素晴らしい、フランス語だったのだ… 意地悪く、紙片をポンと置く	ガートルード「ほんとね！」 ラビニア「フン！　ま、こんなもので勘弁してあげるわ」
82	机上に叩きつけるようにして…	
83	セーラ　机上の紙片を見つめているところから 淋し気にラビニアを見る セーラを見ようともしないラビニア	
84	デュファルジュ先生が出て来た 教室に向かう ラビニアのイライラ声が聞こえる	ラビニア(off)「何してるのよ！　もういいわよ!!」
86	ラビニア　セーラを追い払うように	ラビニア「早く行きなさいってば!!」 セーラ　「はい」
87	デュファルジュ　ドアを開ける	S・E　（ガチャ）

	振り向くセーラ		
88	ギョッとなるセーラ		セーラ「あっ！」
89	あわてて自席へ戻るガートルード その後へ、ジェシーがinして坐る		
90	デュファルジュ　近寄って、やさしく尋ねる 逃げるように歩き出すセーラ		デュファルジュ「どうしたんだね、セーラ君。君が教える教室は、お隣りの筈じゃが……」 セーラ「はい、失礼しました」
91	出て行くセーラ　ドア閉めるまで作画		S・E（ガチャ）
92	ふむ?!　ふり向いて教壇へ		デュファルジュ「うむ！」
93	教壇へ近寄って、本を置きつつ答える生徒たち		デュファルジュ「ボンジュール、マドモワゼル」 生徒たち「ボンジュール」
94	セーラに対する時とはまるで違って、明るい顔で答えるラビニ		ラビニア、生徒たち「ムッシュウ、デュファルジュ」

	ア　尻止メ		
95	年少組教室 セーラを待つ一同		
96	アーメンガード　気がかりな表情 入口の方を見る二人		ロッティ「遅いなあ…、セーラ・ママ先生…」 S・E(off)(ドア開く音) ロッティ「あ、セーラ・ママ先生！」 S・E(off)(ガチャ)
97	セーラ　絵本持って入って来る ドア　閉めようとする		セーラ「ごめんなさい。遅くなって…」
98	シーザーが、すばやく入って来る バタン		S・E　(バタン)
99	シーザー　暖炉の方へ歩いて行く セーラ in		
100	シーザー　暖炉の前で、満足気に横になる		
101	セーラ　席に着くと、アーメン		アーメンガード「セーラ……。ラビニアたちが、

	ガードが声をかける セーラ　にっこりして ロッティたちに 喜ぶ子供たち		また何か……?!」 セーラ「ううん、何でもないのよ、アーメンガード。さ、今日は絵本で勉強しましょうね」 ロッティ「うわあい！」
102	まだ気がかりなアーメンガード		
103	デュファルジュ　教壇に手をつく PAN・UP↑		デュファルジュ「さてと……。先週出しておいた宿題のことじゃが……」
104	ざわめく一同		生徒達「ワイワイ、ガヤガヤ……」
105	胸を張るラビニア		デュファルジュ(off)「ラビニア君とジェシー君とガートルード君には」
106	デュファルジュ　三人に確かめるように		デュファルジュ「夏休み前に、御両親にフランス語で手紙を書いてみるように言っておいたが、うまく書けたかな?!」
107	得意気に答える三人組		ラビニア「ウイ！　ムッシュウ、デュファルジュ」 ジェシー、ガートルード「ウイ！　ウイ！」

108	デュファルジュ　感心して 返事するジェシー 紙片を渡しに出ようとするジェシー	デュファルジュ「ほほう…。では、ジェシー君」 ジェシー「はい」 デュファルジュ「いや、そこでよろしい」
109	え…?!　となるジェシー びっくりするジェシー	ジェシー「え！」 デュファルジュ(off)「読んで頂こうかな、その手紙を」 ジェシー「読むって…、今、ここでですか？」
110	ラビニアも意外であった	ラビニア「ラッ！」
111	デュファルジュ　うなずいて	デュファルジュ「その通りじゃよ、ジェシー君」
112	ジェシー　助けを求めるかのごとく、ラビニアを見るが、ラビニアはじっと下を向いている	
113	顔戻して困った… 仕方なく読み始めるが、すぐにつかえてしまう　首ひねる	ジェシー「ジュ…ジュ、プレ…ジュ、プレンド……、えーと……」
114	クスクス笑うクリステル、ダイ	クリステル、ダイアナ、ジェニファ「フフ……」

	アナ、ジェニファ	
115	わざとびっくりしたような口調で言う	デュファルジュ「どうしたんじゃね？ 自分で書いたフランス語が、読めないのかね？」
116	どっと笑うクリステル、ダイアナ、ジェニファ	生徒達「ハハハハ……」
117	同・リンダとドルシラ	生徒達「ハハハハ……」
118	まっ赤になっているジェシー	
119	ジェシー 坐る びっくりしたように顔をあげるガートルード 紙片を持って立ちあがるガートルード	デュファルジュ「よろしい、坐りたまえ。では、ガートルード君」 ガートルード「は、はい！」 デュファルジュ「読んでくれたまえ」
120	読み始めるが、ジェシーと同じである	ガートルード「えーと…ジュ…ジュ…えーと…ジュ、プレ……えーと……」
121	どっと笑う	生徒達「ハハハ……」

122	あきれかえるデュファルジュ		デュファルジュ「フー」
123	まっ赤になって立ちつくす、ガートルード		
124	ラビニア　横目で見る 級友たちに笑い者にされて、たまるものか‥ そっと手紙に手をのせて、ゆっくり引き寄せる　かくそうとしているのだ		
125	ゆっくり引き寄せるラビニアの手 デュファルジュの手が、その手紙を押さえる		
126	ハッと顔を上げるラビニア		ラビニア「ハッ！」 デュファルジュ「ラビニア君。君の手紙も読んで頂こうかな？」
127	ラビニア　憎しみのこもった目でにらみつけている　T・B		

No.	画面		台詞
	ブイと、そっぽを向くラビニア		
128	デュファルジュ　確かめるようにして 手紙を、とりあげて読む 回り込んで、手前へ来る		デュファルジュ「ほほう……、読みたくないと言う訳かな?!　それでは失敬じゃが、手紙を拝見することにしよう。ふうむ……」
129	ジェシーたちのそばへ来て、手をさし出す 仕方なく手紙を渡すジェシーとガートルード 読みつつひき返す		デュファルジュ「君たちのも、拝見しよう」
130	読みながら、教壇の方へ来る ジェシー、ガートルードの分をそれぞれ読みます		
131	大げさに驚いてみせる		デュファルジュ「ほほう……」
132	ちょっとビクリとするラビニア		ラビニア「ハッ!」
133	デュファルジュ　大げさに驚いている		デュファルジュ「ふうむ……、なるほど……。 〜

	ふり返って		いや、三つとも、仲々良く出来たフランス語じゃ」
134	顔あげるラビニア		
135	顔見合わせるジェシー、ガートルード		ジェシー、ガートルード「はァ！」
136	机上に手紙を置きつつ		デュファルジュ「しかし諸君。今度、宿題をセーラ君に頼む時は、読み方も習っておくようにしたまえ」
137	ドット笑い出す生徒たち		生徒達「ハハハ……………」
138	まっ赤になってうつ向くラビニア		〜〜〜〜〜
139	恥ずかしいジェシーとガートルード		←〜〜〜
140	ニコニコしているデュファルジュと、進み出る		デュファルジュ「それでは、他の諸君の宿題を拝見しよう」

141	うつ向いているラビニアの横を通るデュファルジュ		デュファルジュ「ダイアナ君にリンダ君」 ダイアナ、リンダ(off)「ウイ！ ムッシュ、デュファルジュ」 ←（こぼす）
142	ラビニアの顔色がかわる 怒りの表情		
143	手を固くにぎりしめる 怒りで震える		
144	T・U 怒りの表情のラビニア		
O・L			
145	怒りのラビニアのUP		

〈前半・終り〉

146	セーラの授業　セーラを見つめる一同　絵本をひろげ発音を勉強しているセーラ達	セーラ「レグリーズー、さあ、言うのよ」 一同「レグリーズ」〜〜〜〜
147	セーラ　絵本を示しながら セーラ　ニコニコと見回す　傍のロッティ笑顔でピョコンとうなづく	セーラ「……そうそう……教会の事ね……」 S・E（振鈴の音　カラーン　カラーン）
148	目を覚まし、大きく欠伸をするシーザー　尾で床を払うように振る	シーザー「ファ〜〜〜」
149	絵本を閉じるセーラ ロッティもの足りなさそうに甘えて言う	セーラ「さ、今日はこれでおしまいにしましょう！」 ロッティ「わぁ、つまんなあい！　セーラ、ママ先生にもっと習いたいのに!!」
150	にっこりするセーラ　肩すくめる	セーラ「まあ!!」
151	教室表　T・B	ディファルジュ(off)「では今日はここまで……オ・ルボワール、マドモアゼル」

	年少組の教室から生徒たち出て来る	生徒たち(off)「オ・ルボワール、ムッシュウ、ディファルジュ」
152	子供たちが駆けて行くとディファルジュが教室から出て来る ロッティを先頭にセーラ・アーメンガードやって来る そのセーラを呼びとめるディファルジュ セーラに近づいてやさしく尋ねる	ディファルジュ「セーラ君」 ディファルジュ「どうだね、授業の方はうまく行ってるかね？」
153	セーラ　少し恥じらいつつ答える	セーラ「はい。でも、教えるってことがこんなに難しいとは思いませんでした」
154	ディファルジュ　うなずいてからやさしく言う	ディファルジュ「しっかり頑張り給え」
155	大きくうなずくセーラ ロッティ　のり出して自慢げに言う かがみこんでほめるディファルジュ、ロッティの肩の辺りをぽんぽんと叩く……満足げ	セーラ「はい」 ロッティ「私、フランス語うまくなったもん！」 ディファルジュ「ほほう、そりゃ良かった」 ロッティ「フフ……」

	ににこりするロッティ		
156	にっこりするセーラ（※今のとの瞬間の幸福感を表現して下さい） ディファルジュに顔を向けて		セーラ「では、下の仕事がありますので……」
157	ディファルジュ　身体を起こす 一礼して歩き出す一同 out 見送るディファルジュ		ディファルジュ「御苦労だね」
158	教室のドアを細目に開けて　ラビニアが顔を出し見守っている		
159	地下室へ降りて行くセーラを見送ったロッティとアーメンガードは二階へ		
160	にこにこと見送っていたディファルジュ　歩き出す out		
161	教官室のドア開けて入って行くディファルジュ		

162	その音を聞いてから　ラビニア の怒りの顔に　T・U		S・E(off)（ドア閉まる音　ガチャ）
163	院長室　事務をとるミンチン		
164	ソファに坐っているアメリアが 小さく欠伸する　ドアの方を見 るアメリア　C－PAN↗ ドア開けて入って来るラビニア		アメリア「ファ～～～～ア」 S・E(off)（ノックの音　コンコン） ミンチン(off)「おはいり！」
165	ミンチン振り返って 立ちあがるミンチン		ミンチン「おや、ラビニアさん」 S・E(off)（ドア閉める音　ガチャ） ミンチン「どうなさったんです？」
166	うなだれて　しおらしく振舞う ラビニア ミンチンの同情をひくための演 技なのです		ラビニア「私……、院長先生に……申し上げた いことがあるんです」 ミンチン(off)「なんです？」 ラビニア「はい……セーラのことです」
167	眉がピクリと動く		ミンチン「セーラのこと？」
168	顔をあげてうなずくラビニア （※あたかも自分が被害者であ		

	るかのような表情をうまく表現して下さい）		
169	使用人用出入口　セーラ　買物カゴ持って出て来る　続くベッキー　バケツ持ってます　ドアはセーラが閉めます　仲良く並んで歩き出す		
170	階段のぼって行く二人		
171	立ち止まって 歩き出すセーラ		セーラ　「それじゃ、行って来るわね、ベッキー」 ベッキー「はい、お嬢様。お気をつけて」 セーラ「ありがとう」
172	道を渡って行く		
173	見送っていたベッキー　ふり向いてバケツ置いて　ブラシでジャブジャブやり始める		
174	ミンチン　目パチクリ後セリフ		ミンチン「なんですって？　ディファルジュ先

	信じられないという表情のミンチン		生はセーラをヒイキにしていると言うのですか？」
175	まだしおらしく振舞っているラビニア		ラビニア「本当なんです。ディファルジュ先生はセーラにフランス語の本まであげました……。私……みんな知っているんです」
176	びっくりするミンチン		ミンチン「まあ！ そんなことまで……」
177	アメリア 目パチクリ		
178	パッと顔上げて口惜しそうにだが同情引くように言う ゆっくりとうなだれる		ラビニア「院長先生……！ 私、この学院の生徒でもないメイドのセーラが、あんなにディファルジュ先生に大事にされているのが……我慢出来ないんです」
179	ラビニア 手を握りしめて		
180	眉しかめるミンチン		
181	顔あげて きっぱりと言う		ラビニア「こんな事が続くのでしたら、私、この学院をやめるって、お母様に手紙を

	立ちあがり行きかける		書くつもりです」
182	一瞬あわてたミンチン動き早く手でラビニアを制する　ミンチン立ち上る		ミンチン「おまちなさい……！　ラビニアさん……」
183	ミンチンを見つめるラビニア振り返るミンチン考えこむ　ミンチンを見つめるラビニア　歩き出しoutしていくミンチン　PAN　T・U　不安そうなアメリア　意地悪げな笑いがラビニアの口許に浮ぶ		ラビニア「フフッ！」
184	窓辺に行き佇むミンチン（※うつむいてます。考え込んでイライラしている感じをよろしく！）ゆっくりT・U　T・Uしきってから顔をあげる		
185	ミンチンの顔に奇妙な微笑がうかんでいる		

186	紅茶を注ぐ		
187	ディファルジュ　ティーポットを置いて　ティーカップとりあげ香りを楽しむ　一口飲んだところへノックの音　聞こえる扉の方に返事するディファルジュ		S・E(off)（ノックの音） ディファルジュ「はい、どうぞ」
188	ミンチンドァ開けて入って来る ドア閉めてやって来る		ディファルジュ「やあ、院長先生」 ミンチン「ちょっとお邪魔しますよ、ディファルジュ先生」
189	ソファに腰かけるミンチン 冷たく言うミンチン		ディファルジュ「紅茶はいかがかな、院長先生」 ミンチン「いいえ、結構です」
190	目を瞬く		ディファルジュ「ん?!」
191	つとめて愛想よく振舞うミンチ 胸をそらし気味に眼鏡に触れて話をきりだす		ミンチン「ディファルジュ先生。実は一寸お話したいことがございましてね」 ディファルジュ「ほう……私に何か?!」 ミンチン「ご存知と思いますが、この学院にはこの学院の教育方針と申すものがござ

No.	画面		台詞
			います」
192	うなずくディファルジュ		ディファルジュ「いかにも」
193	"例えば"の後　少し間を置く		ミンチン「例えば……セーラについてです」
194	神妙なディファルジュ		ディファルジュ「セーラ君のこと？」
195	コベントガーデン市場 C－PAN←　買物カゴをセーラに渡すピーター　セーラ、礼を言って歩き出す　手を振って見送るピーター		ミンチン(off)「御承知の取り」
196	FOLLOW←　歩くセーラ		ミンチン(off)「あの子は父親の不幸に逢って以来、私の特別の温情で」
197	FOLLOW↖　歩くセーラ		ミンチン(off)「当学院に置いてやっている子です」
198	うなずくディファルジュ		
199	ミンチン　きっぱりと言う		ミンチン「そのセーラに不必要な同情を寄せたりなされては、他の生徒の手前大変に

カット	内容		セリフ
	うつ向き加減で首を横に振るミンチン　セリフ尻ではディファルジュをキッと見据える		困るのです」 ディファルジュ（背）「しかし、ミンチン先生」 ミンチン「いいえ、先生が私の方針に反対なのはよく存じておりますわ」
200	無言で見返すディファルジュ		
201	うすら笑いを浮かべて		ミンチン「……実は、私……。先生にお勧めしたい事がございますの」
202	ディファルジュ　上目使いに		ディファルジュ「ほう……どんなことでしょう?!」
203	台詞はonからoffへ ←C-PAN 凝然とミンチンを見つめるディファルジュ フッと息を吐くディファルジュ 再びミンチンを見て言う		ミンチン「こう申しては失礼かも知れませんけど、先生もお年ですし、ここらで暫くお休み下さっては如何でしょうかしら。勿論、御希望でしたら、お国のフランスへお帰りになってもよろしゅうございます」 ディファルジュ「フーッ、つまり、この私にやめろという御忠告のようですな」
204	ミンチン　冷めたい感じで言い		ミンチン「ま、そう言った声も生徒たちの一部

	放つ 照れ笑いするミンチン		にございます。私も御両親たちの手前、 生徒たちに人気のない先生には困る訳 でございましてね。ホホホホ……」
205	ディファルジュの顔に怒りが浮かぶ　しかし、セーラの行く末を案じて淋し気な顔つきになる		
206	やって来るセーラ　立ち止まってカゴを持ちかえる		
207	顔あげて小さくタメ息をつく 歩き出す		セーラ　「フーッ！」
208	奥へ進むセーラ		
209	玄関の階段　磨いているベッキー　ドアが開く　顔をあげるベッキー PAN・UP　ディファルジュが出て来る		
210	あわてて立ちあがって道をゆずるベッキー　その間にドアを閉		ベッキー「あ、先生さま」 ディファルジュ「ありがとう、ベッキー」

	めるディファルジュ　階段降りて来つつ		ディファルジュ「ありがとう、ベッキー」
211	階段降りてふり返り尋ねる 顔戻して残念そう……　でも仕方がないという表情　改まって言う		ディファルジュ「ところで、セーラ君は？」 ベッキー「はい、今、市場へお買い物に……」 ディファルジュ「そうか……　では、セーラ君に伝えておいてくれ給え」
212	ベッキーも真剣になる		ベッキー「は、はい」
213	顔上げて遠くを見ているような感じで、一語一語をここにはいないセーラに聞かせる		ディファルジュ「もう二度と逢う事もなかろうが元気で頑張ってくれるように、とな」
214	顔を上げるベッキー		ベッキー「え?!」
215	にっこりとベッキーを見てふり向いて歩き出す		ディファルジュ「君も元気でな、ベッキー」
216	手前に歩いてくるディファルジュ		

217	←FOLLOW 歩くディファルジュ		
218	ベッキー 駆け出て来る 佇む		
219	ゆっくりと帰って行くディファルジュ		
220	呆然と見送るベッキー		
221	ミンチン 手を打ち鳴らす		
222	ざわめく一同を静めるミンチン 一同静かになる		ミンチン「静かに！ 静かになさい!!」
223	見回して満足げにうなづき話し始めるミンチン アメリア 辛そうにうつ向いている		ミンチン「今まで、皆さんにフランス語を教えて下さったディファルジュ先生は、御都合で今日限りおやめになる事になりました」
224	びっくりするアーメンガード		アーメンガード「エッ！」
225	冷笑するラビニア 顔見合わせ		ラビニア「フフフ………！」

	るジェシー　ガートルード	ジェシー・ガートルード「はあ？」
226	ミンチン　一同見回しつつ　つとめて明るく話すと、歩き出す　アメリア、ついて行く	ミンチン「後任のフランス語の先生は早速お呼びしてありますから心配しないように！　判りましたね、皆さん!!」
227	扉へ近づき　開けて出て行くミンチン　アメリア　ドア閉める	
228	見送っている一同 途端にざわめく一同 アーメンガードのみポカンとしている	S・E(off)（ドア閉まる音　ガチャ） クリステル「ね、ね、どういうことかしら？」 ダイアナ「院長先生がおっしゃる通りのことよ」
229	同　ペチャクチャ　ペチャクチャ	ドルシラ「ほんとうなのかしら？」 リンダ「信じられないわ、わたし……」
230	年少組の連中もガヤガヤ言ってる ロッティ否定する	ペネラビ「じゃ、セーラ先生も先生やめるのかしら？」 ロッティ「そんなことないもん！」
231	ラビニア　そのロッティの方をちらりと見る　顔戻して得意気	ロッティ(off)「絶対ないもん!!」 ラビニア「フフッ！」

	にニヤリ		
232	玄関前　愕然となるセーラ		セーラ「なんですって?!　ディファルジュ先生が?!」
233	まるで自分が追い出したかのようにすまながって答えるベッキー		ベッキー「は、はい。二度と逢えないだろうけど、頑張るようにと………」
234	震えるセーラ いとおし気にディファルジュの去った方向を見る いきなりカゴをベッキーに押しつける 駆け出すセーラ		セーラ「そんな……そんな……」 セーラ「ディファルジュ先生が………」 セーラ「ベッキー、お願い!!」 ベッキー「お嬢様!」
235	駆けて行くセーラ		
236	半ベソかいてるベッキー　口の中で……〃お嬢様……〃		ベッキー「おじょうさま」
237	→FOLLOW　走るセーラの足		

238	↘FOLLOW　BG　走るセーラの顔		
239	走るセーラ　FOLLOW←		
240	走るセーラ　FOLLOW　路地裏を進むセーラ		
241	下町の人の好きそうなオバサンが談笑している　その横をセーラが駆け抜ける		
242	下町らしい露地を駆けるセーラ		
243	走るセーラつけPAN　見え隠れするセーラ　汽車が走る		S・E（ポ——）
244	FOLLOW↗　駆けるセーラ		
245	本屋が見える　セーラ　手前から大きくin　本屋へ向かって駆けて行く		

246	ショーウィンドウのぞいている親子 セーラ その横の入口の中へ駆け込む		
247	中はアパート 階段駆けのぼるセーラ		
248	のぼって来る 回り込んで行く		
249	セーラ 駆けて来て更に上の階へ 階段をのぼる		
250	階段のぼるセーラの足 背動		
251	FOLLOW↖ 手前に三階の床がinしてセーラをかくす		
252A	登って来るセーラ 扉の前に止る		
252B	息あらいセーラノックする		ディファルジュ(off)「どうぞー、あいてますよ」
253	ディファルジュの部屋のドア		

	セーラがドーンとドアを開ける ノブに持たれかかるようにして 息を整える 身体、起こして見る		セーラ「ハアハアハアハアハアハアハアハアハア……」
254	ディファルジュの屋根裏部屋 C－PAN→		
255	ディファルジュの姿は見えない セーラ　そちらを見る		ディファルジュ(off)「どなたじゃな？」
256	小部屋からディファルジュ出て 来る		
257	顔クシャクシャにして駆け寄る セーラ		セーラ「先生………」 セーラ「ディファルジュ先生!!」
258	ディファルジュの胸に飛び込む セーラ		
259	PAN・UP↑　むせび泣くセ ーラの背　驚きで声も出ない		ディファルジュ「………セーラ君……」

	しばらくして　かすれた声で言う		
260	先生の胸の中のセーラ		セーラ　「ウウウ……エーン」 〜
261	抱き合う二人		
262	窓の外で遊ぶ雀 O・L		
263	礼を言うディファルジュ		セーラ　「私、先生がお辞めになると聞いて夢中で来てしまったんです」 ディファルジュ「ありがとう、セーラ君」
264	顔をパッとディファルジュに向けて		セーラ　「先生！　わたしのために先生は……」
265	笑顔で首を横に振って　やさしく言う　ディファルジュ		ディファルジュ「いや、私は君のために辞めたわけではない。以前から考えておった事なんじゃよ」
266	淡々と優しく話をするディファルジュ		ディファルジュ「ロンドンも良い街じゃが、私のように年をとってくると冬の寒さが少々こたえるようになってな。それ

			で私の生れ故郷の南フランスへ帰りたくなって来たんじゃよ」
267	雀が遊ぶ		
268	顔戻して　しみじみと言う		ディファルジュ「あそこはほんとうに温くて良い所だ。一度、セーラ君も連れて行ってやりたいよ」
269	その言葉を聞いて涙があふれ出る		セーラ「……でも、私は……先生がいらっしゃらないと、これからどうしていいのかわかりません」 「エーン　ウウウ……」
270	ディファルジュのヒザの上に身を投げ出して泣くセーラ	A・C	
271	むせび泣くセーラ		
272	痛ましそうに見つめていたディファルジュがセーラの身体に手を置く		

273	セーラを起こして ゆっくり　T・U		ディファルジュ「セーラ君。人生には辛く悲しい事がたくさんある。だが、くじけては駄目じゃ。希望をもって一生懸命努力するのじゃ。努力をすれば、報われる日がきっと来る。私は、君のその勇気を信じておる」
274	セーラ　ゆっくりとその言葉をくり返す		セーラ「……勇気?!」
275	ゆっくりうなずくディファルジュ		ディファルジュ「……セーラ君。君には持てる。いや君なら持てる。努力する勇気を!!」
276	セーラの目に涙があふれる　T・U		セーラ「……先生……」
277	T・U		ディファルジュ「私はいつまでも君のことを忘れないよ。マドモアゼル・セーラ」
278	セーラ　つとめて明るく言う ディファルジュの胸に顔をうずめるセーラ		セーラ「メルシ……メルシ、ボーク……ムッシュウ、ディファルジュ……」

279	むせび泣くセーラ PAN・UP↗ ディファルジュの眼にも涙が光っている O・L		セーラ「うう…………」
280	ロンドンの街並 O・L		S・E(off)「汽笛の音が遠くに聞こえる)
281	ボ〜ッ！ カット一杯 T・B 大阪作画 O・L		セーラ（N）「○○○○○ ○○○○○……わたしのことをいつまでも忘れないとおっしゃったディファルジュ先生は、それから一週間後、フランスへお発ちになりました」
282	セーラの部屋の窓から灯りがもれている O・L		
283	ベッドの上で、エミリーを抱いてるセーラ そのセーラにゆっくり T・U O・L		セーラ（N）「見送ることもできない私は、辛い悲しみの中に、ただじっと汽笛の音を聞き続けていたのでした」
284	にっこり笑ったエミリーから PAN・UP エミリーの顔とは似ても似つかぬ辛く悲しいセーラの顔 F・O		

＜おしまい＞